

### 昨年よりも2カ月早く発生中

大阪府堺市で市立東百舌鳥小学校が学級閉鎖されたのはまだ10月初旬のこと。その後10月中には府内14の小中学校が学級閉鎖になるなど、関西では早くもインフルエンザが大流行し始めている。温暖化の影響とも、今年台風が上陸しなかったせいともいわれるが、原因は不明だ。

全国100人の医師からの情報を集計、いち早くインフルエンザの流行状況を発信するサイト「MLインフルエンザ流行前線情報DB」の管理人である小児科医の西藤なるを先

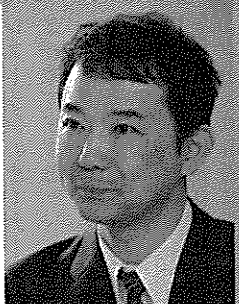
大阪では10月に14の小中学校が...  
東京、神奈川、埼玉でも次々と学級閉鎖!

# '09年インフルエンザ対策

## 新型抗体マスク

### 早めのワクチン接種で防げ!

耐タミフルウイルスも日本上陸!



西藤なる先生のサイトは <http://ml-flu.children.jp/>

生は、こう警告する。

「大阪府だけでなく、全国的にも東京、神奈川、埼玉などいくつかの都道府県で学級閉鎖が行われています。早めのワクチン接種をしてください」

昨年、東京の流行が12月に始まったのを考えれば、2カ月前も早い流行となる。ワクチン接種は、小児の場合2回接種で、免疫ができるのは最初の接種から4週間後。

「タイミングとしては今、2回目の接種を行うぐらいでちょうどいい。大人の場合は1回接種でいいので、今のうちにワクチン接種を行えば、本

格的な流行の前に免疫力を高めておくことができます」

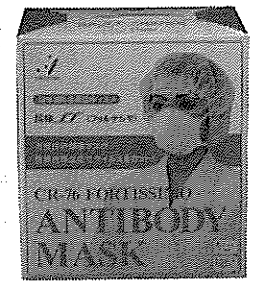
そんななか、抗ウイルス薬のタミフルが効かない「耐タミフルウイルス」が昨年、日本でも発見されたと報告された。このタイプが今年流行するかは不明ということだがタミフルに頼っている日本人としては、なんとも不気味だ。

では、インフルエンザにどう対処すればいいのか。注目されるのがマスク。特に「N95」というタイプは、その名称が示すとおり、フィルターの目の細かさが特徴。

「インフルエンザウイルスの直径は0.03マイクロメートルと極小ですが、実際に感染するときには、咳などで空中に飛ぶウイルスを含んだ粒子は直径0.3マイクロメートルなので、N95マスクならば、ほぼ100%とらえることができます」(塚本康浩京都府立大学生命環境科学研究所教授)

目が細かいと息苦しいという欠点もあったが、塚本教授はこれも克服したマスクを開発。「抗体マスク」(写真左下)といわれ、ウイルスの抗体をフィルターに塗布している。

「従来、ウイルスはマスクの外側に付着して生きていたわけですが、抗体マスクの場合はフィルターに塗布した抗体のために不活化(ウイルスを殺してしまう)して、感染力を失います。同時に、空気の流れも確保しています」



10月に発売された「抗体フォルテシモ Sサイズ」(6,720円 20枚入り)

もちろん抗体マスクをしたからといってインフルエンザ対策は万全、とはいかない。前出の西藤先生は、「ひとつに頼るな」とアドバイスする。「ワクチンを打ち、マスクを使い、さらに手洗いや、うがいをするようにしましょう」

高価なマスクはもちろんだが、不織布タイプの使い切りでも十分効果的という。

「口にハンカチを当てるだけでも効果的。ただ、人ごみなど、ウイルスがたくさんいるような場所に行く場合は、高性能マスクが予防に役立つかもしれません」

